京都日本画新展
2025

京都
日本画
2025 新展

ごあいさつ

京都における日本画は「京都画壇」として数多くの日本画家を輩出し、また日本画の世界で育った人材は京都の美術・工芸・伝統産業を支えてきました。私たちは創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都文化の発展に寄与することを目指しています。

「京都懇談会」の提言を受け、若手日本画家の活動を奨励することを目的として2008年度に創設した「京都 日本画新展」。2013年度からの「続（しょく）『京都 日本画新展』」と合わせて、16年以上にわたり作品の発表の場を提供してまいりました。現在、同展出品を経て、多くの作家が各方面で活躍しています。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展を目指し、「京都 日本画新展」を開催いたします。

本展では、大賞・優秀賞受賞作をはじめ、推薦委員から推薦を受けた20～40歳代の計30作家の秀作と、推薦委員の日本画家の新作を合わせて展覧いたします。

今後も「京都 日本画新展」が将来有望な若い作家たちにとって研鑽の場となり、また多様な展開を見せる現代日本画の新しい試みの一つとして、京都画壇の一助となることを願っています。

2025年２月

主催者

Greetings

The Japanese arts through “Kyoto Art World” have groomed many artists that have supported the arts and crafts, as well as the traditional artistry of Kyoto. Our goal is to contribute to the development of Kyoto culture by encouraging the next generation of creative youthful artists.

Based on the proposal of the Kyoto Advisory Panel, “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” was established in 2008 with the goal of encouraging the activities of younger generation of Japanese artists. Together with the sequel of “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” from 2013, we have provided an exhibition to showcase artwork for over 16 years. Currently, many artists are actively involved in various fields after participating in our exhibitions. We’d like to continue our exhibition together with the aspiring new generation of artists that is unique to Kyoto.

In our exhibition, together with the Grand Prize and Excellence Award Winning Arts, we will exhibit the excellent artwork from a total of 30 artists in the age ranges of 20s to 40s, as well as the new Japanese artwork recommended by the panel.

We hope that our “Kyoto Art World” will continue to be the educational venue for potential young artists and that it will be the beacon of displaying the new attempts and the various development of contemporary Japanese artistry.

February 2025

The Organizer

「京都 日本画新展」について

「京都 日本画新展」は、日本画を志す若手作家の創作活動の奨励・支援を目的として2008年度に創設されました。以来、若手日本画家たちの自由な表現の場として、また同世代作家たちとの研さんの場として毎年本展を開催してきました。

2013年度からは、「続（しょく）『京都 日本画新展』」、そして、2018年度からは京都府、京都市、京都商工会議所が共催に加わり、京都全体で取り組む日本画の展覧会として継承しています。

本展への出品は、京都、滋賀、奈良、大阪の大学で日本画の指導にあたっている先生方に推薦委員を委嘱し、より幅広い視点で、より多様な若手作家を毎年、推薦いただいています。また、受賞作品の選考にあたっては、日本画家をはじめとしたものづくりに携わる作家の方々に選考委員を務めていただきました。

出品の条件は、京都を中心に活動する、あるいは京都に縁のある、概ね20～40歳代の若手作家です。推薦委員により候補者を選定し、出品依頼を行います。

今年度は、30人の出品者に新作を制作していただきました。2024年11月11日に選考会を実施し、大賞１点、優秀賞２点、奨励賞（京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞）３点を選出しました。

本展では、受賞作品を含む30作品を展示。あわせて推薦委員６人の作品も展示します。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、「京都 日本画新展」を展開していきます。

京都 日本画新展2025

会期：2025年２月７日（金）～２月16日（日）
会場：美術館「えき」KYOTO

主催：西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞
共催：京都府、京都市、京都商工会議所
後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、KBS京都、エフエム京都

［推薦委員］
石 股　昭（奈良芸術短期大学教授）
雲丹亀利彦（京都精華大学教授）
大 沼 憲 昭（嵯峨美術大学名誉教授）
川 嶋　涉（京都市立芸術大学教授）
西久松吉雄（成安造形大学名誉教授）
村 居 正 之（大阪芸術大学教授）

［選考委員］
内田あぐり（日本画家、武蔵野美術大学名誉教授）
大野　俊明（日本画家、成安造形大学名誉教授）
澤田　瞳子（小説家、同志社大学客員教授）
下出祐太郎（蒔絵師、京都産業大学名誉教授）
村上　良子（紬織作家、重要無形文化財保持者）

（いずれも五十音順・敬称略）

図版

大賞　Laundry basket にて宝探しをする　Treasure Hunt in the Laundry Basket.

竹下 麻衣

たけした まい／TAKESHITA Mai

1999 島根県大田市に生まれる｜2022 嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画・古画領域卒業、Idemitsu Art Award グランプリ（国立新美術館／東京）｜2023 個展「部屋のなかをみてまわる」（LADS GALLERY／大阪）｜2024 京都 日本画新展 優秀賞（美術館「えき」KYOTO）、個展「生活のなか／散歩をする」（同時代ギャラリー／京都）

◎本展出品作について作家より

子どもがランドリーバスケットにおもちゃを入れた。おもちゃが見えたり隠れたり見つけたり拾ったり、宝探しをしているようだ。

優秀賞　小満の歓　Delight of Shoman (Lesser Fullness)

紫嵐

しらん／SHIRAN

1989 奈良県北葛城郡に生まれる｜2014 FACE展損保ジャパン日本興亜美術賞展 入選（東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館／東京 同16、17年）｜2015 京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業｜2024 郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）

◎本展出品作について作家より

「小満」とは、５月20日頃を指し、枇杷の実が熟す時期でもあります。夕暮れ時、陽に染まる枇杷の実が一層黄みを増して輝きます。「待ってました！」とばかりに一斉に集まったムクドリたちの聲や梅雨に入る前の空気には、歓喜のような生命の豊かさとエネルギーを感じます。

優秀賞　Sound of Silver －万華－　Sound of Silver -Banka-

田口 涼一

たぐち りょういち／TAGUCHI Ryoichi

1981 大阪市に生まれる｜2003　創画展 初入選｜2006 春季創画展 初入選｜2011 京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程修了｜2012 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO 同19年、22年奨励賞・京都府知事賞)｜2021 個展(ギャラリー恵風／京都 同23年)｜2023 個展(小杉画廊／神奈川)、新京都展(ギャルリーためながの京都店 同24年)｜2024 NOUVEL HORIZON JAPON(ギャルリーためながパリ店／フランス)

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

「もしきみがどこかの星の花が好きなら　夜空を見上げると最高にたのしいよ　花がいっぱいだから」(『星の王子さま』を読んで)

大切なことは目に見えないことであると実感する毎日です。そのような夜の空を銀箔、焼箔で表現しました。

奨励賞・京都府知事賞　家路　Goin' Home

西田 鳩子

にしだ はとこ／NISHIDA Hatoko

1993 京都市に生まれる｜2017 日春展 入選(同19、21～24年)、日展 入選(18～20、23、24年)｜2018 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了

現在 青塔社 所属、新日春会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

今日も仕事をし、一生懸命生きて、うまくいったこともいかなかったこともお腹に抱え、あかりの点く家に帰ります。「私」にほどけていく帰り道を描きました。

奨励賞・京都市長賞　息吹　Breath

高野 純子

たかの じゅんこ／TAKANO Junko

1986 兵庫県西宮市に生まれる｜2012 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了｜2013 個展（Jiku Art Creation／兵庫）｜2018 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）、個展（あべのハルカス近鉄本店／大阪 同22年）、高野山準別格本山恵光院襖絵四面奉納（和歌山 同22年）

◎本展出品作について作家より

シマウマの日常の姿を通して、草むらが所々光って見えるような強い日差しや、かすかな草の香り、それらの周りの気配と呼応するように、混ざり合うように、ただ確かに存在するシマウマの息づかいが感じられるものを表したいと思って描きました。

奨励賞・京都商工会議所会頭賞　有霊論と丹後由良海景　Sea of Tango Yura and the Animism

千坂 尚義

ちさか ひさよし／CHISAKA Hisayoshi

1994 京都府宮津市に生まれる｜2017 石本正日本画大賞展 大賞（浜田市立石正美術館／島根）｜2021 成安造形大学美術領域日本画コース卒業｜2022 個展（Social Kitchen 2F／京都）｜2023 いい芽 ふくら芽 in TOKYO 八犬堂ギャラリー賞（大丸東京店）、個展（ATELIER MAY／京都）｜2024 BIG-i×Bunkamuraアートプロジェクト 上田バロン賞（Bunkamura Gallery 8／東京）

◎本展出品作について作家より

普段「色織」という色と心をテーマにした絵巻物を作っております。
物語で重きを置いているのが日本のアニミズムの世界観で、私の生まれた由良の海や木や神社などで培われた感性と共鳴しています。
今回は畏敬の念を込めて由良の海をなるべくそっくりになるよう工夫し描きました。
裏打ちから表装まで全てこだわり自分で作っております。

まちわびる　to Long for a Day

荒木 百花

あらき ももか／ARAKI Momoka

1998 滋賀県草津市に生まれる｜2021 石本正日本画大賞展 準大賞第一席（浜田市立石正美術館／島根）｜2022 成安造形大学美術領域日本画コース卒業（卒業制作展 優秀賞）、現代ART巡回展～THE CIRCLE～（ちいさいおうち／京都、ギャラリー国立／東京）｜2023 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO 同24年）

◎本展出品作について作家より

2024年は私の中で楽しみなことが多くあり、今まで行ったことのなかった場所を訪れる機会などにも恵まれました。そして、2025年もまだまだ楽しみに待っていることが多くあります。待つ時にはカレンダーを見ながら指折り数えております。私にとってこの動作は幸せなものだと思い、今回描きました。

泡沫の宵　Short-Lived Evening

入江 俊平

いりえ しゅんぺい／IRIE Shumpei

1980 京都府八幡市に生まれる｜2003 京展（京都市美術館 同06～08年）｜2004 創画展 入選（同05～07、13、19、21～24年）｜2005 京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻修士課程修了｜2006 春季創画展（同07～09、11、16～19、21～24年）｜2017 個展（ギャラリー恵風／京都 同19、21、23年）

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

山の中での夕暮れ時、時間が静止しているようなあっという間に過ぎていくような感覚に包まれます。瞬きをする度に違う景色に変わっていくような儚さを感じます。暮れゆく景色に安心と畏れを感じ、そんな情景を表現したいと制作しました。

形式　Format

宇野 加奈子

うの かなこ／UNO Kanako

1997 大分市に生まれる｜2020 大阪芸術大学芸術学部美術学科日本画コース卒業｜2021 日展入選（同22、23年）、関西美術大学選抜展（大阪高島屋 同22、23年）｜2022 日春展 新人賞（同23年入選）｜2023 ART STORY 80th 京都日本画家協会創立80周年記念展（京都文化博物館）

現在 新日春会会友、京都日本画家協会会員

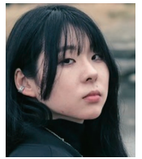
◎本展出品作について作家より

雨の日だけに通る通勤路で壊れた駐車禁止の看板を見つけた。
折り重なるように置かれた看板たちは時間が経ち本来の意図がなくなり形式だけになっているように感じる。
空になった看板たちのひしめく様子は何か別の意味を持つような錯覚を覚えた。

歩み　Steps

大西 佑奈

おおにし ゆうな／ONISHI Yuna



1999 三重県伊賀市に生まれる｜2021 佐藤太清賞公募美術展 特選 板橋区長賞（福知山市厚生会館／京都他）｜2023 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）、石本正日本画大賞展 奨励賞（浜田市立石正美術館／島根）｜2024 嵯峨美術大学大学院芸術研究科造形分野修了

◎本展出品作について作家より

多くの思い出を共有する友人。
久々に会うと、彼女の成長や心の移ろいだけでなく、わたし自身が歩いた跡が見えるような気がします。
他人と繋がることにより、自分の一部のようなものに触れることができるのは不思議で素敵なことだと思いました。

聲　KOE

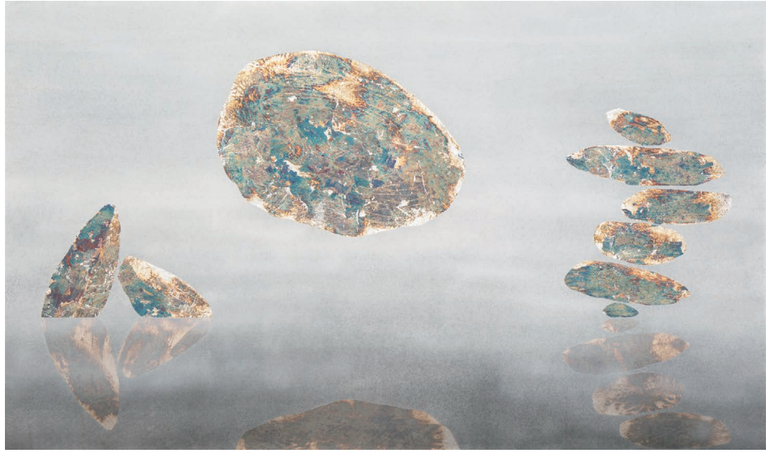
奥田 有規

おくだ ゆき／OKUDA Yuki

1998 奈良県磯城郡に生まれる｜2019 嵯峨美術大学日本画制作展「守破離 －Shu・Ha・Ri－」（アートスペース嵯峨／京都 同22年）｜2021 石本正日本画大賞展(浜田市立石正美術館／島根)、佐藤太清賞公募美術展（福知山市厚生会館／京都他）｜2022 上野の森美術館大賞展（上野の森美術館／東京）｜2023 嵯峨美術大学大学院芸術研究科修了、同大学大学院卒業制作展、京都日本画新展（美術館「えき」KYOTO）

◎本展出品作について作家より

学生の頃、飼育されていた金鶏が眠りについた。生前は、凛とした佇まいでこちらを睨みつけていたが、目の前に横たわる姿は小さく見える。鶏小屋の騒がしさとは対照的に、静かに目を瞑り柔らかな雰囲気を纏っていた。鋭さは生きようともがくからこそ宿るのだと感じた。生まれるものには死があることを実感し、言い知れぬ気持ちと向き合いたいと思い制作した。



しゆはり　SHIYUHARI

開藤 菜々子

かいとう ななこ／KAITO Nanako

1990 東京都江戸川区に生まれる｜2016 大阪芸術大学大学院芸術研究科芸術制作専攻前期課程修士修了、佐藤太清賞公募美術展 福知山市長賞（福知山市厚生会館／京都他 同17年佐藤太清賞）｜2018 雪梁舎フィレンツェ賞展 優秀賞（雪梁舎美術館／新潟 19～21、23年佳作）

◎本展出品作について作家より

石をモチーフに風化していくものの美しさを表現したい。色や和紙を重ねて、それを繰り返し何層にもすることで空気を含んだ白と箔の変化は風化していくものと重なっていく。

今見えているのは“石の中”であり、時とともに“石の外”にうつろい、石の表情が顔をのぞかせている。

東雲の空　Sunrise Sky

上岡 奈苗

かみおか ななえ／KAMIOKA Nanae

1982 大阪府和泉市に生まれる｜2007 京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻日本画修了｜2013 個展（Art space-MEISEI／京都 同16、19年）｜2018 個展「譜の彩」（gallery R&T／東京）｜2022 個展「あふれる彩－Overflowing colors－」（大雅堂／京都）

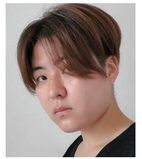
◎本展出品作について作家より

卵から孵化させ雛から大事に育ててきた鶏たちと共に過ごす毎日で、畜産動物のことをより身近に考えるようになりました。
人は多くの命を頂き生きているということをわかっていても、その頂く命に対する尊ぶ気持ちは、日々の慌ただしい時の流れでどこかへ薄れていってしまうのでしょうか。

蒼蒼　Pale Blue

川島 美樹

かわしま みき／KAWASHIMA Miki



1999 滋賀県東近江市に生まれる｜2023 嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画・古画領域卒業

現在 嵯峨美術大学大学院芸術研究科造形分野日本画領域在籍

◎本展出品作について作家より

夏の日、まだ花が咲く前のスイフヨウの葉を題材に選びました。強い日差しと茹だるような暑さで、自分の視界は次第にぼやけていきますがそれでも、生い茂る葉の色や形は強く目に焼き付きます。稀に吹く風でゆれる蒼が心地良い、そんな様子を描きました。

内に触れる　Feel Inside

木岡　史

きおか ふみ／KIOKA Fumi

1998 兵庫県神戸市に生まれる｜2019 京都市立芸術大学作品展 山口賞（京都市立芸術大学）｜2020 京都銀行美術支援制度 購入作品選抜｜2022 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了｜2024 個展「思考の余白」（galleryMain／京都）

◎本展出品作について作家より
思考の余白は、心地の良いものだ。
それは、深部にある微かな心情にも気づかせてくれる。
それを生み出す空間づくりを、私は試みつづける。

向かう木　Grow Towards

北川　咲

きたがわ さき／KITAGAWA Saki

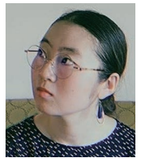
1995 京都府京田辺市に生まれる｜2018 日展入選（同19、24年、20年京都新聞賞）｜2020 上野の森美術館大賞展 入選（上野の森美術館／東京）｜2021 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了、日春展 入選（同22～24年）｜2022 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）

◎本展出品作について作家より
植物のつくり出す量感の魅力に目が留まる。
あちこちに向かって伸びる枝ぶりや、心地よく連なる葉の重なりが、鬱蒼とした量感を形づくる。
形とその見え方を画面上で探りながら、自然の大きな存在感が立ちあがることを目指し制作している。

羽休　Rest Your Wings

北野 青空

きたの あおぞら／KITANO Aozora



1996 京都市に生まれる｜2020 京都花鳥館賞優秀賞（京都花鳥館）｜2021 成安造形大学研究生修了｜2023 個展「熟れない星のままに」（ギャラリー恵風／京都）｜2024 二人展「にちにちこれこうじつ。」（ANTIQUE belle GALLERY／京都）

◎本展出品作について作家より

例えばコンクリートの隙間に生える苔だったり、遠くに霞む山脈と空だったり、そういった日常的に溢れる境界線に惹かれることが多いです。普段はそんな境界線を自分なりに心地よい色合いや形で描いています。今回は風が強い日に見た木々や葉が絡まり境界がなくなる瞬間が面白いなと思い、そこから着想を得て描いてみました。

fragments

小山 大地

こやま だいち／KOYAMA Daichi

1985 三重県伊賀市に生まれる｜2008 創画展入選（同09～23年）｜2010 大阪芸術大学大学院芸術研究科修士課程（前期）修了｜2011 春季創画展 入選（同12～24年）｜2014 上野の森美術館大賞展 賞候補（上野の森美術館／東京）｜2019 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

ばらばらになった人々の記憶は繋ぎ止められるのだろうか。記憶の欠片を紡いでいけば、いつかひとつながりの文脈になることを祈りながら描いています。悲しい記憶も、苦しい記憶も。

片隅　Corner

坂口 鈴音

さかぐち すずね／SAKAGUCHI Suzune

2001 大阪府八尾市に生まれる｜2023 創画展 入選｜2024 春季創画展 入選、奈良芸術短期大学専攻科卒業

◎本展出品作について作家より

探せばどこにでもある風景ですが、そんな日常の片隅にある、小さな感動を表現できたらと思い描きました。

爛漫　Splendid

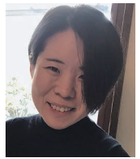
島本 純江

しまもと すみえ／SHIMAMOTO Sumie

夜の帳　Under the Shroud of Night

清水　薫

しみず かおる／SHIMIZU Kaoru



1990 奈良市に生まれる｜2011 春季創画展 入選（同12年、13年春季展賞）｜2012 成安造形大学造形学部造形美術科日本画クラス卒業、京展 栖鳳賞（京都市美術館）｜2013 京都 日本画新展 優秀賞（美術館「えき」KYOTO 同14、24年出品）

現在 京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

ふと見上げた空に孤独を感じることがある。
感覚を研ぎ澄ませ何かを美しいと感じるとき、孤独であることを実感する。
周りを取り巻く空気が柔らかく染まり、闇に包まれていく様子に心情を重ね、誰かの心の中にもある孤独に寄り添いたいと思い制作した。

悠久　Eternity

竹内 昌二

たけうち しょうじ／TAKEUCHI Shoji

1989 京都市に生まれる｜2012 京展 入選（京都市美術館 同14年市長賞）、日展 入選（以後出品、18、23年特選）｜2013 日春展 入選（以後出品、18、22年新日春賞、21年奨励賞）｜2014 金沢美術工芸大学大学院修士課程絵画専攻日本画コース修了｜2020 京都花鳥館賞 優秀賞（京都花鳥館 同21年最優秀賞）

現在 日展会友、新日春会会員、京都日本画家協会会員、東丘社 所属

◎本展出品作について作家より

この作品の現場は滋賀県甲賀市にある岩尾池の一本杉です。
現場には樹齢1000年以上の巨木が鎮座しており、その木を前にした時にとても静かで時間が止まったような感覚を覚えました。
その感覚を大事に取材する中で、静けさの中の強さを表現できたらと思い制作しました。

園生　Garden

土淵 麻衣

どぶち まい／DOBUCHI Mai

1991 京都府綾部市に生まれる｜2016 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了｜2018 神戸アートマルシェ（神戸メリケンパークオリエンタルホテル 同23年）｜2022 ART@DAIMARU（大丸京都店 同23年）｜2023 Study:大阪関西国際芸術祭／アートフェア（グランフロント大阪）、大本山大覚寺紙本著色稚児大師像奉納（京都）

◎本展出品作について作家より

植物への興味からこの数年ガーデニングにのめり込んだ。
土を崩し根っこに触れ、葉や花を愛でた。
成長に喜び失敗に打ちひしがれ、この空間の中で私は破壊と創造を繰り返す唯一神であった。
そうして、ここにはひとつの景色が出来上がった。

昔日　Old Days

中村 妃菜

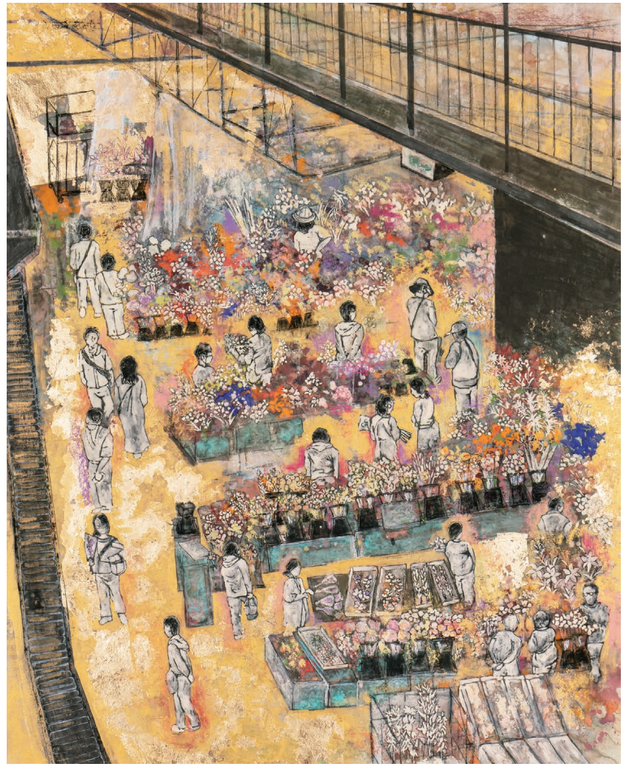
なかむら ひな／NAKAMURA Hina

1995 熊本市に生まれる｜2017 日展 入選（同18～24年）、日春展 入選（同18～22年、23、24年新日春賞）｜2019 石本正日本画大賞展 奨励賞（浜田市立石正美術館／島根）｜2020 崇城大学芸術研究科美術専攻修士課程修了｜2021 安曇野涼風扇子展 涼風賞（安曇野市豊科近代美術館／長野）

現在 新日春会准会員

◎本展出品作について作家より

今は使われなくなってしまった廃屋にも、当時の名残や空気など懐かしさだけではなく、何かがこれからも続いていくような気配を表現できたらなと思いながら描きました。目に見える物だけでなく、見えないものまで感じ取って表現していきたいです。



朝の花市場　Morning Flower Market

野口 愉加

のぐち ゆか／NOGUCHI Yuka

1987 奈良市に生まれる｜2010 日春展 入選（同11、23、24年）｜2011 日展 入選（同22、23年）｜2013 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程日本画専攻修了｜2015 松伯日本画展 入賞（松伯美術館／奈良 同20年）｜2021 飛騨高山臥龍桜日本画大賞展 入選

◎本展出品作について作家より

たくさんの花屋が仕入れに来る朝の花市場。
どの色を使おうかと絵の具の色を選ぶように、
たくさんの花達が次々と選ばれ買われてゆく。
花屋さんにとっての日常のこの景色は、まるで
絵を描くようにワクワクする瞬間だ。

めざめ　Wake Up

服部 由空

はっとり ゆうく／HATTORI Yuku

1991 滋賀県栗東市に生まれる｜2016 京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術表現専攻日本画修了｜2018 個展「さとがすみ」（大雅堂／京都）｜2023 個展「さとうらら」（ジェイアール名古屋タカシマヤ／愛知）、滋賀県美術展覧会 特選・滋賀県美術協会理事長賞（滋賀県立美術館）

現在 成安造形大学助教

◎本展出品作について作家より

たっぷりと水をたたえる大気、青葉を潤す霧雨、
やさしく照らされる朝陽…。
自然と人間が共生する早朝の里山には、天候や
空模様とさまざまな生命の息遣いが響き合う
ような情景があふれています。
里山の空気感を和紙の自然な風合いで見立て描
きます。

憩う　Rest

平田 祐子

ひらた ゆうこ／HIRATA Yuko

1986 大阪市に生まれる｜2008 春季創画展 入選（同09、10、13～17、19～24年）｜2010 創画展 入選（同13、15、16、19、20、23、24年）｜2011 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程美術専攻日本画修了 大学院市長賞｜2023 郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）

現在 創画会会友、京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より

白い山のような存在感が印象に残り、ヤギを描き始めました。微笑んで見えたり、不気味に見えたり。

私より早く老いていくヤギが何を思っているのかと想像を巡らせながら、静かに安らぐ姿を描きたいと思いました。

夜に浮かぶ　Float in the Night

前川 祥子

まえかわ しょうこ／MAEKAWA Shoko

1987 京都府宇治市に生まれる｜2009 創画展奨励賞（同11年、19、23、24年創画会賞）｜2010 春季創画展 春季展賞（同16、17、22、24年）、松伯美術館花鳥画展 優秀賞（松伯美術館／奈良 同11年、15年大賞）｜2012 京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了｜2015 石本正日本画大賞展 準大賞（浜田市立石正美術館／島根）

◎本展出品作について作家より

静かな夜を照らす月はグレーに染まった心を柔らかく包み込みます。

優しかったあの人への想い、諦めきれない気持ち、迷いや後悔、今日も様々な想いを夜の空に浮かべます。

Yesterday

宮城 教人

みやぎ きょうと／MIYAGI Kyoto

1981 兵庫県尼崎市に生まれる｜2004 創画展 入選(同05、06、09、23年)｜2005 春季創画展 入選(同06、07、24年)｜2007 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程美術専攻日本画修了

現在 兵庫県立高校教員

◎本展出品作について作家より

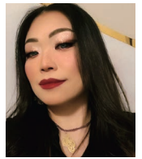
懐かしい場所を訪れると胸が高鳴る。今では草に覆われ、失われてしまった思い出の場所。私達はそこで同じ時間を過ごした。今はもう誰もいない。

「昔話を始めたらおじさんです」。そんなこと言われてもあの時のあの場所を思い出すと語らずにはいられない。

Bastet

宮本 怜子

みやもと れいこ／MIYAMOTO Reiko



1982 兵庫県西宮市に生まれる｜2013 大阪芸術大学大学院博士課程(前期)修了、日展 入選｜2019 日春展 入選(同21年)｜2022 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)

◎本展出品作について作家より

この作品は、エジプトを旅して感じた日常のひとつです。砂ぼこりが舞い、様々なスパイスや香水の香り、音楽や鳴りやまない自動車のクラクション音、活気ある人々の雑踏の中にある静の空間。惹きつけられてしょうがない景色を表現しました。

推薦委員
図版

草の詩　Poem of Grass

石股　昭

いしまた あきら／ISHIMATA Akira

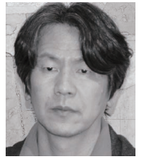
1957 京都市に生まれる｜1982 春季創画展 初入選（同86、88、89、92、93、95年、03年春季展賞）、創画展 初入選（同97、05年、06年創画会賞）、京都美術選抜展 京都府買上（同84年）

現在 奈良芸術短期大学教授、創画会会員

時の姿　The Appearance of Time

雲丹亀 利彦

うにがめ としひこ／UNIGAME Toshihiko



1966 兵庫県姫路市に生まれる｜1989 大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業｜1998 創画展 創画会賞（同99～01年）、京都日本画家協会新鋭選抜展 京都府知事賞（京都文化博物館）

現在 京都精華大学教授、創画会会員

白骨の御文　Rennyo's Message on White Ashes

大沼 憲昭

おおぬま のりあき／ONUMA Noriaki

1954 石川県金沢市に生まれる｜1976 大谷大学文学部卒業、パンリアル美術協会展 春・秋季展（京都市美術館 同77～93年、93年退会）｜1981 山種美術館賞展 今日の日本画（山種美術館／東京 同87、89、91、98年）｜1990 京都新聞日本画賞展 優秀賞（大丸ミュージアム京都 91、92年大賞、93年招待）

現在 嵯峨美術大学名誉教授

現象 No.58　GENSHO No.58

川嶋　渉

かわしま わたる／KAWASHIMA Wataru

1966 京都市に生まれる｜1989 京都精華大学卒業｜1996 日展 特選（同02年）｜2019 個展「粒であり波である」（大雅堂／京都）｜2023 個展「粒の表情－現象－」（日本橋三越本店／東京）

現在 京都市立芸術大学教授、日展会員

雨曼陀羅　Rain Mandala

西久松 吉雄

にしひさまつ よしお／NISHIHISAMATSU Yoshio

1952 京都市に生まれる｜1979 京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了｜1995 山種美術館賞展 優秀賞（山種美術館／東京）｜2010 京都美術文化賞｜2020 京都府文化賞功労賞｜2023 京都市文化功労者

現在 成安造形大学名誉教授、浜田市立石正美術館館長、創画会副理事長

悠久　Eternal Time

村居 正之

むらい まさゆき／MURAI Masayuki

1947 京都市に生まれる｜1968 青塔社入塾、池田遙邨・池田道夫に師事｜1971 日展 初入選（同75、90年特選、18年文部科学大臣賞、94、98、04、10、18、21、23年審査員）｜2020 日本芸術院賞・恩賜賞、日本芸術院会員就任

現在 大阪芸術大学美術学科教授学科長、金沢美術工芸大学客員教授、日展理事、新日春会副理事長、日本芸術院会員

出品リスト

	氏名	作品名	素材・技法	サイズ(タテ×ヨコ)
大賞	竹下 麻衣	Laundry basket にて宝探しをする	綿布、岩絵具、水干絵具、箔、パステル	161×139
優秀賞	紫嵐(藤田真弥)	小満の歓	紙本着彩、高知麻紙、岩絵具、水干絵具、膠	161×161
優秀賞	田口 涼一	Sound of Silver －万華－	麻紙等、純金箔、純金泥、焼箔、耐変色性銀箔、銀泥	161×162
奨励賞・京都府知事賞	西田 鳩子	家路	麻紙、ピグメント、岩絵具	111×161
奨励賞・京都市長賞	高野 純子	息吹	麻紙、墨、胡粉、水干絵具、岩絵具、金泥	161×161
奨励賞・京都商工会議所会頭賞	千坂 尚義	有霊論と丹後由良海景	和紙、墨、胡粉、手作り絵具、藍、布、木材	130×159
	荒木 百花	まちわびる	高知麻紙、墨、水干絵具、岩絵具	129×161
	入江 俊平	泡沫の宵	麻紙、岩絵具	162×162
	宇野 加奈子	形式	木製パネル、キャンバス、水干絵具、岩絵具、パステル	80×162
	大西 佑奈	歩み	麻紙、水干絵具、岩絵具	161×161
	奥田 有規	聲	雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、墨、鉛筆	161×161
	開藤 菜々子	しゆはり	麻紙、水干絵具、岩絵具、箔、墨	95×160
	上岡 奈苗	東雲の空	紙本着彩、岩絵具	162×130
	川島 美樹	蒼蒼	絹、岩絵具、水干絵具	112×162
	木岡　史	内に触れる	高知麻紙、水干絵具、岩絵具、コンテ、色鉛筆	163×163
	北川　咲	向かう木	高知麻紙、岩絵具	162×162
	北野 青空	羽休	板パネル、高知和紙、水干絵具、岩絵具	111×144
	小山 大地	fragments	木製パネル、綿布、岩絵具、膠、顔料	162×162
	坂口 鈴音	片隅	麻紙、水干絵具、岩絵具	160×109
	島本 純江	爛漫	木製パネル、雲肌麻紙、岩絵具	159×127
	清水　薫	夜の帳	雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具	161×129
	竹内 昌二	悠久	麻紙、岩絵具、黒箔	111×161
	土淵 麻衣	園生	高知和紙、水干絵具、岩絵具、墨、金箔、紅茶、コンテ	129×161
	中村 妃菜	昔日	麻紙、岩絵具	129×161
	野口 愉加	朝の花市場	高知麻紙、水干絵具、岩絵具、墨、金箔、パステル	161×129
	服部 由空	めざめ	近江雁皮紙、透明水彩絵具、岩絵具	97×146
	平田 祐子	憩う	高知麻紙、水干絵具、岩絵具、膠	161×161
	前川 祥子	夜に浮かぶ	高知麻紙、岩絵具、墨、銀箔	162×162
	宮城 教人	Yesterday	麻紙、岩絵具、水干絵具、箔、色鉛筆	162×162
	宮本 怜子	Bastet	パネル、和紙、水干絵具、岩絵具、泥、箔	161×129
推薦委員				
	石股　昭	草の詩	麻紙、岩絵具	116×90
	雲丹亀 利彦	時の姿	岩絵具、箔	116×90
	大沼 憲昭	白骨の御文	麻紙、墨、岩絵具、金箔、銀箔、泥	89×115
	川嶋　渉	現象 No.58	丹後和紙、墨	92×62
	西久松 吉雄	雨曼陀羅	麻紙、岩絵具	144×96
	村居 正之	悠久	麻紙、岩絵具	117×117

「京都 日本画新展2025」選考を終えて

今日の社会における多様性の傾向は顕著であり、日本画表現を含む美術の分野でも、その傾向は明らかである。2008年に創設されて以来、17年目を迎える「京都 日本画新展」に於いても同様の展開となっている。各作家の造形感覚や価値観というものが、時代と共に変化するのは当然であり、それぞれの時代の空気感を共有し創作されてきた表現には、新たな創造への兆しが内包されているかもしれない。であれば、選考を行う側にも、多様な表現の中から優れた作品を正確に見極める確かな美意識と感性を養う努力が必要となる。そのような認識を持って臨んだ選考の結果、大賞１点、優秀賞２点、奨励賞（京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞）３点が、５名の委員の合意により決定された。今回出品された全ての作品からは、表現技法の違いこそあれ、全精力を注ぎ込んだからこそ生まれてくる確かなメッセージを強く感じ取ることができた。例えば、徹底した描写を通して得た普遍的な造形美を作画の中に探求したもの。また、日本画の古典絵画にみられる二次元表現の平面性に触発されたもの。あるいは日本画素材の特質を再確認することから見えた新たな可能性を探求したもの。さらに自身の日常のひとこまを斬新な切り口で画面構成されたものなど。いずれも創作の原点となる発想や表現技法は多岐に及んでいる。今後も、その本質となる芸術性や造形性を追求する姿勢は、持ち続けてほしい。

（大野俊明／日本画家、成安造形大学名誉教授）

「京都 日本画新展2025」へ寄せて

今年で２回目となる審査でしたが、全体的に充実している作品が多いと感じました。日本画絵具が美しく使われているか、古典的技法が表現にどのように生かされているか、独自の世界観を持っているか、現代性があるか、という視点で作品を拝見しました。入江俊平《泡沫の宵》はシュルレアリスム的な風景表現で、彼岸と此岸の世界観を持ち、日本画絵具の使い方と発色が独特な美しい作品でした。奨励賞・京都商工会議所会頭賞の千坂尚義《有霊論と丹後由良海景》の墨の線描と胡粉、藍で描かれた古典的表現には、作者の内面性が溢れ、軸装というクラシックな様式が似合い、現代性を感じました。選考日には残念ながら間に合わなかった上岡奈苗《東雲の空》の作品画像を後日事務局から送られてきたのを拝見して、軽やかで美しい色彩と空気感のある良い作品で、実際の展覧会会場で拝見するのが楽しみです。大賞の竹下麻衣《Laundry basket にて宝探しをする》はダイナミックな構成と軽やかな色彩が美しく、現代性のある日本画表現として大賞に相応しい秀作でした。優秀賞の田口涼一《Sound of Silver－万華－》は箔を焼いた上に胡粉で描かれた紋様のようなシンプルな表現が美しく、同優秀賞の紫嵐《小満の歓》は群青とビワが補色関係で描かれて、明快な色彩とフォルムによる力強い作品でした。

（内田あぐり／日本画家、武蔵野美術大学名誉教授）

「京都 日本画新展2025」選考を終えて

今回、「京都 日本画新展2025」の出品作は作者の意図をひたむきに示した作品が複数あり、そのエネルギーには気圧されるほどであった。ただ前回の講評でも触れたことではあるが、なにを語り、なにを語らないか。その取捨選択の点において、多弁にすぎる作品もまま見られたことは否めない。絵画という表現は多くの可能性を有するものであるが、だからこそ絵筆だからこそ、否、絵筆でなければ描けぬものに純粋なる目を向けていただきたいと強く願う。その点において、日本画の本質を実直に見据えた作品にも同時に多く出会えたことは喜ばしい。一方で今回は、選考委員たる我々もまた選考という「語り」について改めて思いを致せる時間となった。若き創作者たちの門出を寿ぐとともに、その更なる活躍を期待したい。

（澤田瞳子／小説家、同志社大学客員教授）

『対峙する』

最近、谷文晁（ぶんちょう）が描いた太公望と対峙することがありました。軸幅三尺の絹本で、水墨で描かれた腕組みして竿先を睨みつける形相に、自分の中にあった日がな一日釣りをする太公望のイメージが一変しました。文晁が向き合った太公望は、今まさに周の文王を釣らんとする真剣勝負を捉えたものだと気づきました。

今回の審査ではそれに似た経験をしました。昨年にも増して多種多様な表現の印象で、習作とも見える作品から緻密な表現の作品まで、日本画の表現の多様性に圧倒されながら、どれもが作者が主題を突き詰める方法論であったと感じました。

作者が向き合い対峙するもの。私が蒔絵で目指す表現に技術の究極の高みがあり、同時に己が向き合う生き方がある。

技術の堅実さが暴くモチーフに対峙する姿勢。日本画の豊かな情感を見据えながら、真剣勝負の審査でした。

（下出祐太郎／蒔絵師、京都産業大学名誉教授）

画家の佇まいを感じて

今回は、日本画の魅力に更に惹かれる思いで選考に当たらせていただいた。

会場の作品から初めに感じたのは、対象に向かう画家の謙虚で瑞々しい姿勢であった。多様な視点や主題へのアプローチ等から深く内包された作家の芸術性に触れる事ができたように思う。工芸に於いても同様に感じることであるが、類似テーマの追求や技術の練磨は優れた作品を生みだす一方、経年の中で本来の生命を失うことがある。果たして、この度の作品にはこのような失望を感じることは無かった。

受賞作品のおのおのは、その背後に日本画の伝統を踏まえ、独自の感性を今日の新鮮な表現力として結実させている。奨励賞・京都商工会議所会頭賞の《有霊論と丹後由良海景》（千坂尚義）は実在の風土や文学的伝説、超自然現象などの異次元空間を浮遊感のある一体画面に構成し、視線を虚実の澪（あわい）へと誘う。明日に向けた本展の充実を意義深く感じた。

（村上良子／紬織作家、重要無形文化財保持者）

京都日本画新展 2025

発行日　2025年２月７日
発　行　京都新聞
制　作　ニューカラー写真印刷株式会社